

協働パイロット事業 (H26) 企画提案書

団体名：かるがも親子

1. 事業の名称

しずおかのこどもを地域のおとなが育てよう  
「かるがも親子の遊び講座&商店さんとのカフェトーク」

2. 事業方針 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください)

事業コンセプト

～親子が気軽に集える居場所づくり～  
『こどもとお出かけする毎日をもっと幸せに』

事業目的

- ① 行政・地域の人々・民間商店と親子の出会いの場をつくる
- ② 未就学園児とその親へ定期的な親子講座を実施する
- ③ 子育て世代の親と商店をマッチングさせ、親子が集う居場所づくりのための商店の商品・サービスをカフェトークというリラックスした雰囲気の中で話し合う

事業背景

【公益性】

- 出産後5割の女性が就業せず、育児に専念している点、「団塊の世代」が65歳をむかえ、シニア世代が有意義な老後のライフスタイルを模索しているという点から、「子育て支援」というキーワードで、今こそ世代交流を深める時代が到来。
  - 育児世代の行政に対する要望ランキング2位に「遊び場所の充実」が挙げられた(1位は医療費など経済支援の拡大)：『静岡市しずおか☆未来をひらく子供プラン』資料より
  - 親が子どもイベント情報や遊び場所・こども受入れOKの飲食店などの商店検索に苦心
- 以上の社会動向より、商店と親子層とシニア層を繋ぐことで、親子が商店に集うまちづくりが可能になり、経済活動の活性化を望める公益性の高い事業になり得ると考えます。

【市の施策としての妥当性】

静岡県主催「ふじさんっこ応援隊」や、静岡市主催「静岡市子育て支援連絡会」が推奨しているように、現在、子育て支援に取り組む団体、企業や行政等が、協力・連携をさらに広げていこうとしています。その際には市民団体「かるがも親子」のようなつなぎ役が不可欠だと思います。

次世代育成支援対策推進法第8条による子育てしやすいまちづくりのための『静岡市しずおか☆未来をひらく子供プラン』(市町村行動計画後期平成22～26年度)が施行中など、行政が全力を上げて行っていることに、繋がり方がわからない支援したい市民団体や商店はたくさんあります。まずはかるがも親子が身近な地域近隣からこのようなモデルプランを発信してみたいと思います。

### 3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと（市の役割）

かるがも親子（未就学園児とその親）をキーワードに、“行政”“商店”“地域”が繋がれば、そこに“子育て支援が寄り添うまちづくり”が生まれます。

当団体の「親子講座」では、1歳から3歳の学年の違う子どもさんとその親御さんが、最初はぎこちなく、ですが回を重ねるごとに笑顔で交わって楽しんでいます。

今回、本講座と商店とママさんのカフェトークという企画を思いついたのは、商店の方からのお声かけがあったばかりではありません。講座に参加するママさんと世間話をしていきますと、日常生活の中での出来事に対して、なんとリアルで鋭い要望や感想をお持ちなんだと感心させられたからです。

子連れのママが、無理なく参加でき、普段から商店に感じていることをアウトプットする“場”を設けたら、どんなに面白い発想が出てくるのか楽しみです。

“商店”と“ママさん”との意見交換の場に、商業労政課に加わっていただき、商店街まちづくり事業の取り組みの観点からのアドバイスをいただきながら、共に考えていきたいと希望します。

さらに、現在の問題点は、毎月確実に集える居場所の確保とその部屋代です。

本企画が、商業労政課の空き店舗対策事業の解決策の糸口になる可能性を模索してゆけたらと考えております。

#### 行政に望むこと

- 商業労政課との協働
- 事業経費負担と公共施設の部屋の利用（予約）
- イベントの告知・募集のご協力

#### 当団体の役割

- 事業企画・申込受付
- 講師派遣、材料費購入などの準備・当日の進行
- 商店との打ち合わせ

4. 成果目標（できる限り具体的に表現してください）

1) 単発ではない楽しい親子講座実施により定期的なお出かけ先を増やす

定期的なプログラムを開催することにより、講師や参加者同士が顔見知りになれるという利点が挙げられます。また企画者側は、リピーターの参加者から、講座終了後のアンケートを取り次回に改善された企画を立てることができ、講座の精度が上がっていきます。

2) イキイキしたシニア層と親子の触れ合い

第二部のカフェトークでは、商店とママさんとの意見交換の場を設けます。

その際、託児スペースを設け、素敵で元気なシニア層の方に、紙芝居を読んでもらったり、新聞紙を丸めたり破ったり、お絵かきをしたりなど簡単な遊びを通じて触れ合ってもらえることで、お互いのエネルギーをもらい合い元気になれます。

3) カフェトーク内で実際に出たアイデアを商店で試行して経過を追う

あらかじめ、商店側から親子が集う居場所づくりのための商品・サービスの提案を出してもらい、カフェトークでママさんたちに感想やご意見をいただきます。

カフェトーク終了後、商店と企画者で、そのアイデアをどのように活かしていくかを話し合います。最終目標として、実際にお店にお客様として来店してもらいサービスや商品を買っていただくところまで経過を追い、商店と利用者双方の希望が活かされるようなモデルプランを作成する。

## 5. 事業計画

### 対象

- 未就学園児とその親 10組まで
- 子育て支援を希望する商店と地域住民（主にシニア層）

### 主な実施内容 「かるがも親子の遊び講座とご近所さんカフェトーク」

「親子講座」と「カフェトーク」二部構成で、カフェトークでは、主催者進行のもと商店とママさんとの意見交換の場とし、各自持参の軽食を取りながら、子どもは託児スペースを設けて地域の方と遊んでいただく準備をしておく。

時 間：親子講座 10：30～11：30・カフェトーク 11：20～12：30

実施場所：静岡市内公共施設

（静岡市番町市民活動センター・静岡市西部生涯学習センター希望）

参加費：工作や材料費として500円

事業期間：平成26年7月～平成27年2月のうち、  
月に2回、8ヶ月間開催で通算16回実施

## 6. スケジュール

### H26年5月

- 講師との打ち合わせ・講座内容決定（毎回、前月に次月講座の打ち合わせをする）
- 商店との打ち合わせ・カフェトーク進行内容決定

### H26年6月

- 会場手配、予約
- チラシ作成・印刷
- 市と広報について打ち合わせ
- チラシ配布及び告知、参加者募集、予約申込開始

### H26年7月～翌年2月まで 3回実施

- 講座使用物品準備
- 参加者名簿作成
- 参加者へ参加確認の連絡
- 企画終了後、商店とカフェトークでの意見を下に商店との打ち合わせ

### H27年3月

報告書の作成

## 7. 実施体制および主要スタッフの経歴

代表 かるがもレスキュー 高田たまき

静岡市子育て連絡会所属

2013年4月より、「公益財団法人静岡市まちづくり公社」のチャレンジショップ企画の支援を得、静岡市葵区「ミライエ呉服町」にて、として活動をスタートいたしました。当時3歳になる娘と共に、家と実家と公園の往復の生活から飛び出し、自身の特技を活かしながら地域社会とつながりたく、パソコンの事務の代行業と、市民活動の一環として、未就学園児のお出かけ先を増やすため、こども講座の企画を始めました。

静岡市子育て支援連絡会に所属したことをきっかけに、さまざまな子育て支援団体とつながることができ、更に多くの未就学園児のお出かけ先を発信中です。

### 親子講座講師

✦ 杉山智一氏

「木のおもちゃをつくろう」講座担当

創作工芸 あそび工房店主。

昭和64年 富士ロイヤルカントリークラブ支配人を定年退職後、カナダ・ヨーロッパその他諸国を放浪、ホームステイ やライン川の船に寝泊したりして、諸国の暮らし老後の楽しみ方を現地人並に体験し、Back to Nature に辿る。現在は、藤枝ハルモニアの障害児施設で開発した独創楽器による工作・音楽療法も開始。諸施設・学童クラブでも同活動を定期開催、また自然素材(木の実・貝殻、竹など)を使った工作教室を駿府匠宿・幼稚園・JAF・TOYOTA・静鉄電車祭りなどで出張開催

✦ エココおばさん(遠山かずこ氏・栗林光江氏・増田茂子氏)

「かるがも親子のお料理ごっこ」講座担当

エココおばさんという名で親しまれる安心安全簡単をモットーに教えてくれるシニア女性3人組。

長年、静岡市漁場組合にて魚料理普及のためにお料理講座講師として尽力

H25年3月には、「FMFM-Hi! 主催 Happy 子育て in エネリア」のイベントに呼ばれ

16組の親子と「かるがも親子のお料理ごっこ」を実施

✦ 田代由利子氏

「えいごであそぼう」講座担当

13年間ヤマハ英語教室で従事、現在は、アイセル21 や自宅でこども英語教室を開催している

8. 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

【実現可能性・実行可能性】

当団体は、昨年度より「公益財団法人静岡市まちづくり公社」の支援を得、静岡市葵区「アトサキセブン」、「ミライエ呉服町」にて、「親子と地域を遊びでつなぐ定期プログラム」として、静岡市内にてシニア世代や子育て支援に理解のある講師を募り、未就学園児とその親を対象としたこども講座を、毎月3回、定期プログラムとして開催しています。

その講座を通じ、親子がお出かけ先を求めていること、子ども受入れ可能なお店探しに苦慮していることをアンケート調査により知りました。

と同時に、子育て支援をしたい近隣地域の商店があることを受けて、親子と商店のつなぎ役を担う者が常駐すれば、地域のネットワークの輪は、着実つくれると確信しております。

【先駆性・モデル性】

まちづくりは人が集う居場所作りです。市民全体が、子どもは親だけが育てるものではない、地域の大人皆にお世話になってやっとなんで育っていくのだということを確認し合い、非営利・営利の団体区分も関係ない、商店も業種を超えた横のつながりを持ち、地域の皆で「しずおかの子育て」をしよう！

市民団体と行政と企業、今こそ手をつなぎ、ひとつの団体では思いつかないアイデアを出し合っ、互いの得意分野をフルに活かして大きな支援を形にしていく。一人ではできない支援が、手をつなぐことで可能になる！

という点を、親子と地域の“つなぎ役”として、今後どの地域でも真似してもらえるモデルプランを作成していきたいです。

## 協働パイロット事業 (H26) 見積書

団体名：かるがも親子

企画のタイトル：しずおかのこどもを地域の大人で育てよう  
「かるがも親子の遊び講座と商店さんカフェトーク」  
平成26年7月～平成27年2月のうち、月に2回、8ヶ月間開催で通算16回実施

項目	金額	説明
親子講座講師謝金	80,000	5,000×16回
アシスタント謝金	32,000	2,000円×16回
初版チラシデザイン謝金	10,000	
リクリエーション保険代	10,000	エース損保保険 (H26.7～H27.2 契約)
広告費	40,000	5,000×8回ポスター・チラシ印刷製本費一式
講師交通費	6,080	杉山様バス代@760円×8回
	2,250	エココおばさんガソリン代@150×5km×3回
	1,900	田代様バス代@380円×5回
雑費	16,000	通信費、文房具代、カフェトーク時ドリンク等
間接費	38,000	
小計 A	236,230	
消費税 B = A × 0.08	18,898	
合計 A + B	255,128	

◎実費弁償契約の希望の有無 有  無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な用途
80,000円	単価 500円 参加者 10人 実施 16回	親子講座にかかる材料費